

箱の中

詩のような物語 2
月の裏で逢いましょう
いつか必ず・・・

弥馬都__YAMATO

はじめに～

「箱の中」

囚われて

身体をいたぶられ

羽根を折られて今日もまた

閉じ込めらしは箱の中・・・

今晚は、

弥馬都__YAMATOです

何だか急に詩を書いたら 物語みたいに長くなりそうだったので

久し振りに弥馬都__YAMATOとしての新しい本作りたくなって

作っちゃいました。

前回の【青い炎】の本を出した時もそうでしたが

イメージ的な感覚のみで、ストーリーはまだ未定です。

考えてても足踏み状態で このまま留まりそうなので、

いつものように新しいコトは即、行動！

表紙を作ってみたら、

おどろおどろしい感じになってしまいましたが・・・

これからどんな物語が始まるのやら

いつもこんな感じの私ですが、温かい目で暫く見てやって下さい。

ちょっとちょっと、、通りすがりのそこのお兄さん、お姉さん、

どうぞ覗いておいきなさいな

損はさせないよ～

お代は見てのお帰りだい！

さて、さて時間となりました

開幕です。

覗いてくれてありがとう。

2011/11/08 立冬の日の夜

弥馬都__YAMATO

気だるい・・・

とても。

いつもそうだ、

決まった時刻、判をついたように目は覚めるのに

身体がとても重い

もう慣れてもいい頃なのに

バッカ！じゃないのお～！

と、自分にカツを入れる。

本当はそんな明るい朝ではないのに・・・

太陽は私の身体を浄化してくれるように

サンサンと照りつける。

だから、冬は苦手なのかしら・・・

と、また独り言を言いいそうになり、私は慌てて口を手で押さえた

いつもと変わらぬ朝。

開けばなしのカーテンから太陽の光が差し込む

もう冬なのにあなたは元気ね！

なあ～んだ！冬でもチャント笑えるんだ！

そんな風に太陽に挨拶しながら

枕元に置かれたお気に入りのキャミを羽織りベッドから抜け出す

朝日は差し込む部屋の中

ここが私の住むところ。

朝から夕方までの自由な時間

さ～てと！

本当の自分に おはよう！壊れかけの私にも、おはよう！

いや！？違うか壊れてる私におはよう

そして、新しい朝に新しく生まれてきた私に おはよう！

言葉を発すれば発するほど

切なくて悲しくて、涙が頬を

ツウー！

と流れるのに私は独りしゃべり続けていた

2011/11/

09立冬の日に記

慌てて風呂場に行き
蛇口を目いっぱい開く

頬をつたう涙は似合わないから。
誰が決めたわけでもないのに、
そう自分の中で決めているから

わたしは泣きたい時は風呂場で泣く
シャワーを出しっぱなしにして
できるだけ大きな声で号泣する

そうしているうちに
何だか急にバカらしくなって涙がとまるからだ。

ほ～ら！もう元通り♪

バスタブに泡立つ入浴剤を入れ
勢いよくダイブ！

MILKの香りの入浴剤

バスタブに瘦せっぽちの身体を沈めたら
なんだか遠い記憶が蘇る

怖いもの、汚いもの、醜いもの・・・

そんな感情を知る前の私の記憶

そう、

幼い頃のあたたかな時間

バスタブの中で私は膝を抱えてま～るくなった。

下手すれば、鼻に着く甘い甘い香りと、強く掴むと消えてしまう泡の中

とても穏やかで夕べのコトなど何も考えないでいいように・・・。

毎日、笑ってるのにちっとも幸せじゃない・・・。

時たま、ふと！そう感じる瞬間が 私にはある。

かと言って

わざわざ人様に不幸を誇示して暗い顔をし、同情をかうように賢く生きていく術を 私は知らないのだ。

笑うのは好きだ。

何故なら、私の笑顔に優しい微笑みで返してくれる人がいるから。

暗い顔してたら幸せが逃げていく～

そう誰かに聞いたコトがある。

だから笑う。

笑えなくても笑う。

そんなふうを考えるのも、なんだかバカみたい！

外の世界はまだまだ面白いコトがゴロゴロ転がっている。

誰だって、

幸せ一色の中だけでは生きていけないし、ましてや永遠に不幸なコトも続くはずないわ！

なんだか取ってつけたような理由で自分の気持ちを整理し、泣きたくなくなる気持ちを押し殺すようにに納得させ、家を出た。

照りつける太陽が、寒さの厳しい冬だというコトを忘れさせるように輝いている。

キット今夜の月も穏やかに光るんだろうな～

と、まだ夜には程遠い時間の中、そんなコトを考え、自然に口角が上がってる自分に安心する。

どこにでもいる女と娘の間のような存在の ひとりとして私は、気が付けば素直に笑っていた。

2012/02/01

ちょうど月が半分の上弦の

月の翌日に記

七夕、もう終わっちゃったね・・・。

願い事をふたつ書いて短冊にそっと吊るしたの。

星に願いを～

なんて、そんな非現実的なコト信じてるわけじゃないけど

星に願っても、星は永遠じゃないから・・・

だからわたしは月が好きなの。

穏やかに優しく闇を照らしてくれる

太陽の光が強すぎて隠れてしまっているけれど、

いつでもそっと私を照らしてくれている月に恋してるの。

月が欲しいとか、どこかのワガママなお姫様みたいには言わないわ。

ただ、ここから抜け出したいの わたし・・・。

本当に叶えて欲しい願いは、もう・・・届かない。

2012/07/08

0:40記

☆ 『月の裏で逢いましょう』

<http://p.booklog.jp/book/31321>

処女作品

☆ 『青い炎』

<http://p.booklog.jp/book/32076>

小説です

『青い炎』

鶉飼編は完結。

不定期更新

で続いています。

☆ 『月の裏で逢いましょう 2 ～彗星の乾いた悲鳴～』

<http://p.booklog.jp/book/32248>

詩集です

ほ

ぼ毎日更新中

2人で綴る不思議な本です。僕の半分が私、弥馬都_YAMATO です。

☆ 『Blanco』

blancoとしての処女作

<http://p.booklog.jp/book/32108>

☆ 『Blanco 2 私の半分 僕の半分』

詩集です

<http://p.booklog.jp/book/33457>

☆『ブランコロンの冒険』

2人で書いてるファンタジー小説

<http://p.booklog.jp/book/33025>

不定期更新です

☆Blanco 3 A Cup Of World カップの中の世界

<http://p.booklog.jp/book/38212>

ほぼ毎日更新中の詩集です

箱の中

<http://p.booklog.jp/book/38522>

著者：弥馬都_YAMATO

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/himitsunojikann/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/38522>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/38522>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.